

日本色彩学会活動功労賞

日本色彩学会活動功労賞を受賞して

Greeting of receiving the CSAJ Activity Contribution Award

東 吉彦

Yoshihiko Azuma

東京工芸大学工学部

Faculty of Engineering, Tokyo Polytechnic University



このたびは、日本色彩学会活動功労賞という栄えある賞を頂き、大変光栄に存じます。日頃よりお世話になっております関東支部役員の皆様をはじめ、理事会関係者、会員の皆様に心より感謝申し上げます。

私が色彩学会に入会してから今年で30年目になります。30年と言っても最初の約20年間は単なる学会誌の定期購読者に過ぎず、1997年のAIC京都大会を除けば、色彩学会の全国大会等のイベントに参加したのはたったの1度きりでした。それが学会の活動に参加することになったのは、2013年に当時の関東支部長をされていた小松原仁先生から、支部の手伝いをするようにと誘われたのがきっかけでした。そんなこともあり、その年、早稲田大学で開催された第44回全国大会に久しぶりに参加しました。大会では、池田光男先生の研究室の先輩である矢口博久先生とも再会を果たすことができ、その年に倉敷で開催された秋の大会第1回にも参加し、芦澤昌子先生や佐川賢先生など知己の先輩方にも再会することができました。それ以来、可能な限り全国大会には参加するようになりました。

さて、2013年関東支部幹事をお引き受けしてからは、支部総会やその後の懇親会等を通して支部の皆様とも接する機会が増え、色彩学会の活動に積極的に参加させて頂くようになりました。2014年に初めて理事に就任した際は、色彩学会はまだ任意団体でした。このときは、淵田隆義会長のもとで庶務担当理事を務め、2年目の2015年に一般社団法人への移行作業に従事しました。一般社団法人として、さまざまな規程類が整備され、日本色彩学会が新たな歴史の一步を踏み出した記念すべき年となりました。また、この年にはAIC2015が東京で開催され、実行委員会にも参加し、海外の多数のメンバーを迎えるための準備や当日の運営にも参加しました。レセプションやパンケットの準備で、海外からのメンバー向けの食事メニューの検討を通して、ベジタリアンやハラールなど、食文化の違いにも配慮しなければならないことを学ばせて頂いたことは大いに勉強になりました。

次の2016、2017の2年間は、高橋晋也会長のもと

で事務局担当理事を務めさせて頂き、欠員であった事務員の採用等に携わりました。その後の2018年から2019年(高橋晋也会長)、および2020年から2021年(篠田博之会長)までの4年間は監事として理事会に参加し、学会の財政再建に向けた活動のお手伝いをさせて頂きました。理事4年間、監事4年間の期間を通して、色彩学会の盤石な財政基盤がほぼ確立できてきたのは嬉しい限りです。

また、2019年には、第50回の全国大会を実行委員長として所属機関の東京工芸大学で開催させて頂き、実行委員会のメンバーはじめ、内外関係者のご協力のもと、多数の方に参加頂き、大会を成功に導くことができたことは自分自身の忘れえぬ思い出となっています。2020年度からは関東支部長も務めるようになりましたが、2021年に市原恭代実行委員長のもとでオンライン開催された第52回の全国大会で、自身の経験が役立ったことは間違いありません。あらためて、全国大会の実行委員長という貴重な機会を与えて頂いたことに感謝しています。

ところで、これまでの活動を通して、日本色彩学会が「色彩」を核として、自然科学から芸術や歴史・文化などの人文科学を含む幅広い専門分野の人達の集まりであるだけでなく、多くの出会いの場を提供していること、時代が求める新たな価値を生む場ではないかと強く感じています。新型コロナの発生以来、いつ人類がコロナとの闘いに終止符を打てるのかが不透明な中で、色彩が世の中にさまざまな価値を生み出しているよう、SDG'sを意識した活動を色彩学会全体、或いはそれぞれの研究会や委員会で検討、提案していくことを今後も期待したいと思います。

そして、2023年には第54回の全国大会が栗野由美実行委員長のもと、八王子市の東京造形大学で開催されます。今回の受賞に報いることができるよう、引き続き関東支部長として実行委員会の活動を支えながら、大成功をめざして尽力してまいりますので、皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。